

統合の進む欧州におけるスポーツ労働市場：
スポーツ分野の高等教育が抱える課題

ウォルター・トカラスキー博士
ドイツ体育大学

1. はじめに

教育の中でもとりわけ高等教育の世界は、長年にわたって欧州統合の流れから除外されてきた。欧州連合（EU）が主導する調和に向けた試みの中であって、この政策分野は、おおむね加盟各国の独自領域のままであり続けてきた。

1993年に欧州域内市場が導入されたのを受けて、欧州の職業・学術教育に求められる要件は大きく変化した。この変化への対応の中でも特に顕著なものとして、いわゆるボローニャ・プロセス¹が挙げられる。これは、EU加盟国だけでなく欧州46か国で有効とされるプロセスだ。そして、これにより欧州における高等教育機関には数多くの課題がもたらされた。本日の私のプレゼンテーションでは、欧州域内市場の発展と欧州のスポーツ労働市場の興り、そしてドイツ体育大学でこのプロセスがどのように進展しているかを考察していきたい。

まず、欧州域内市場とその労働市場への影響を全般的に詳しく解説する。続いて、スポーツ労働市場に焦点を当て、スポーツ労働市場の特徴と明確な定義にまつわる問題を取り上げる。ここでは、具体的な職能要件を持った労働市場と高等教育機関とのかかわりが、重要な側面となる。労働市場の要件に関係したボローニャ・プロセスの目的を詳しく検証し、特に、欧州（ボローニャ）・プロセスの重要な要素の1つである被雇用能力の側面をとらえていく。さらに、被雇用能力を全般的な教育課程に取り入れたいいくつかの事例を見ていきたい。そして最後に、ドイツ体育大学で起こっている変化を紹介しながら、被雇用能力に対する検討材料を新しい学士課程と修士課程にどのように取り込んできたかを説明していく。

¹ このプロセスは、1999年、欧州29か国の高等教育責任者がイタリアのボローニャに集まって欧州の教育システムを調和するためのイニシアティブを始めたことから、ボローニャ・プロセスと名付けられた。